

2012年

新春特別対談

# 健全化阻害する 全ての問題に

東日本大震災の様々な被害が日本全体で癒えぬまま、2012年を迎えました。パチンコ・パチスロ業界も昨年は節電から被災地でのボランティアまで、大震災に関係する活動が目立ちました。今年も業界の社会的責任が問われる年になりそうです。

恒例の新春対談は、警察庁保安課の加藤達也課長をゲストにお迎えし、深谷日遊協会長と業界の今後について率直な意見交換をしていただきました。加藤課長は依存症対策、広告・宣伝を含めた遵法営業の促進など業界の諸問題を挙げ、遊技業の社会的地位の向上と健全化に向けて日遊協への期待を述べられました。

## 加藤達也課長 ■ 略歴

長崎県出身。東北大学卒。85年警察庁入庁。警察庁銃対課理事官、大阪府警務課長、警察庁暴対一課理事官、愛知県刑事部長、警視庁公安部参事官兼刑事部付、警察庁官房付（内閣衛星情報センター管理部運用情報管理課長）を経て、10年7月から警察庁保安課長。

## 警察庁保安課 加藤達也課長

深谷会長 明けましておめでとう  
ございます。今年もよろしくご指  
導のほどお願い申し上げます。保  
安課長として2度目の新年を迎え  
られました。昨年の日遊協総会で  
の講話など課長のご発言は、含蓄  
に富み、啓蒙されるところが少な  
からずありました。ご担当されて  
いる幅広い業務の中で、私どもパ  
チンコ・パチスロ産業に対する感  
慨・抱負をお聞かせください。

加藤保安課長 明けましておめで  
とございます。深谷会長との対  
談も昨年に引き続き2度目となり  
ました。本日はどうぞよろしくお  
願ひいたします。さて、ぱちんこ  
業界におきましては、これまでも  
1円ぱちんこに代表される遊技料  
金の低価格化、不正改造防止対策、  
射幸性を抑えた遊技機の開発、賞  
品の取りそろえの充実等、業界の  
健全化に向けた様々な取組が進め  
られてきたものと承知しています。  
一方で、依然として不正改造事犯  
が後を絶たず、また、のめり込み  
に起因すると思われる各種問題等  
の健全化を阻害する要因が残され  
ていることも事実です。今年も警  
察としては、引き続き、こうした  
問題に一つ一つ取り組んでいく

# 真摯な取り組みを



日遊協  
深谷友尋会長

（パチンコ業界の現状と今後について真摯に語ろうとする深谷会長（右）と深谷友尋日遊協会長）

御尽力されたことは今も記憶に新しいところですが。その後も、貴協会の各支部からボランティア隊を派遣され、支援活動を継続しておられるなど、その献身的な対応に感銘を受けております。

また、貴協会を含む業界全体としても、パチンコ・パチスロ21世紀会が被災地への義援金を拠出されるなど、被災地への復興支援に貢献されており、こうした業界の対応に対しまして、改めて敬意を表したいと思います。

## 目標上回る節電遊技しない人も存在感を評価へ

**深谷** 昨年夏の節電は何とか乗り切りました。今冬は対策が進行中です。さて、今年の夏は再び全国的に厳しい電力事情が予想されまします。私たちは引き続き国民注視の中に置かれ、改めて経営の在り方が問われるかも知れません。再びパッシングも覚悟しなければなりません。私自身は、こんなときこそ国民の皆様が目に見えるような経営や節電をし、新たな信頼に結びつけるための経営改革のチャ

いと考えていますし、業界の皆様におかれましても、ぼちんこが健全な娯楽となるための施策をより一層推進していただきたいと思っています。

## 会長自身が先頭被災地支援に敬意を表したい

**深谷** 昨年3月11日に東日本大震災が起きました。日遊協では事務局の電話が鳴りっぱなしで、そのほとんどは「パチンコをやめろ」

「なぜパチンコ屋は節電しないのか」という非難と抗議でした。福高原発事故に対する国民のショックといらだちの矛先が、私たちの産業に直接向けられると痛感しました。行政からも施設の節電対策等についていくつかが要請を受けました。私たちは何をしなければならぬか考え、行動に移しました。業界全体で被災地への義援金活動、ホール業界で輪番休業を含めた節電の取り組みなど、お陰様で業界がほぼ足並みをそろえて活動できたと思っています。

日遊協独自でも、被災地へ支部単位でボランティア隊を派遣しました。昨年は4月以降11月まで18回、189人が出動しました。今年も何らかの形で派遣活動を続ける予定です。

**加藤** 未曾有の大震災が発生してから、10か月が経とうとしています。震災直後の大混乱の中、貴協会では、いち早く対策本部を設置され、被災状況の把握に努められるとともに、会長御自身が陣頭指揮を執って被災地に赴かれ、被災状況の確認や必要物資の提供等に

ンスだと前向きに捉えています。

加藤 貴協会を含むホール5団体では、東北地方太平洋沖地震の発生直後から、東京電力・東北電力管内における電力供給力の不足に対応するため、ネオンサインの可能な限りの消灯等の対応を迅速に講じられ、その上、昨年7月から9月までの3か月間にわたり、東北電力、東京電力管内において足並みをそろえて輪番休業を実施されました。その結果については、政府が要請した節電目標を大きく上回る節電実績を残されたとうかがっており、御努力は大変なものであったと承知しています。このように、遊技をする人だけではなく、遊技をしない人の声にも耳を傾け、地道な努力を重ねて、誠実に社会の要請と向き合っていくことが、ばちんこを真の大衆娯楽として社会的に認知してもらおう上で、また、遊技をしない人からもその存在感を前向きに評価されるために、とても大事なことなのではないかと思います。

現在、冬の節電対策を行っていただいているところですが、引き続き、業界が一致団結して実績を上げられることを期待しています。



読者から送られるお便り

## 娯楽の原点へ ホールとメーカー 共通理解が必要

深谷 業界の健全化を推進する上で先ず指摘されるのは、過度に射幸性を追求する営業姿勢です。遊技機については、高い射幸性ではなく幅のあるゲーム性を追求していくことを真剣に考えなければなりません。日遊協はこれに沿って昨年2月、「もっと楽しく!! もっと遊べる!! ばちんこ&パチスロフェスタ」を主催し、約650人のファン、元ファン、初心者にプレイしてもらい、生の声を聞きました。今年もフェスタを考えています。同時に、ホールは地域のコミュニ

ニケーションの場としてもっとお客様が憩える空間づくりに取り組まなければとも思っています。

加藤 現在、業界では、射幸性を抑え、お客さんがポケットマネーの範囲内で、手軽に安く安心して遊技を楽しむことができる環境の整備を進められていることと承知しております。貴協会では、これまでも遊技機メーカーと協力し、射幸性の低い、幅のあるゲーム性を有する遊技機の開発に力を注いでこられました。また、これを更に推し進めるため、大衆娯楽として幅広い年齢層の方が、低予算で「遊技」を楽しんでもらおうと「もっと楽しく!! もっと遊べる!! ばちんこ&パチスロフェスタ」を主催されるなど、ばちんこが大衆

娯楽の原点に立ち返ろうとする姿勢を強く感じました。

今年も、このような取組を実践されることですが、射幸性を抑える取組を推進し、これを実現していくためには、ホール営業者のみならず、遊技機メーカーとの共通理解が必要不可欠です。

引き続き、今の方向性を堅持され健全化に向けた御努力を期待しています。

## 攻略法詐欺ほか 内外の不正に 横断的に活動

深谷 ホール内外の不正をなくすことも、国民の信頼を得るために避けて通れません。攻略法詐欺については、ファン雑誌と共闘した撲滅キャンペーンが一定の成果を得たと思いますが、まだ油断はできません。「いわゆるゴト行為等への迅速な対応を講じるためのガイドライン」は毎年協定が締結され、順調に機能しています。ホール、遊技機メーカー、販社、周辺機器関連の7団体で構成するセキュリティ対策委員会、全日遊連・日遊協・日工組・日電協によるゴ

ト対策4団体会議、これに周辺機器を加えた5団体会議も活動していますし、PSIO（遊技産業不正対策情報機構）はオープンネット投稿を警察庁及び都道府県警察に通報しています。さらに不正問題は、流通の安全性で中古機流通協議会、機歴管理等で遊技機リサイクル推進委員会にも関連しています。これら業界が自主的に作り上げた現在のスキームについて、どのように見ておられますか。

**加藤** ただ今、会長がおっしゃったように、貴協会が事務局を務められているセキュリティ対策委員会が中心となって、ばちんこ攻略法販売の名目での詐欺被害等の未然防止に向けて、業界内外に協力を求めながら、迅速に対応していただいたことは記憶に新しいところですが、また、PSIOやセキュリティ対策委員会の事務局として、不正改造防止対策に取り組まれるなど、古くからある問題のみならず、新たに発生した問題にも機を逸することなく対応していただいていることに感謝申し上げます。その他、ゴト対策会議、中古機流通協議会及び遊技機リサイクル推進委員会においても、

それぞれが所管する問題について、積極的に検討され解決に向けて努力されていることも承知しており、その姿勢は業界の健全化及び発展のために有意義なことであると思います。

## 信頼を失う 計数機の誤差 直ちに改善を

**深谷** 内部不正に対して遊技産業健全化推進機構による立入検査が今年6年目となります。公平な第三者機関としての推進機構を、今後も業界挙げて、支援してまいります。推進機構は昨年から計数機検査にも着手し、いくつかの異常事案が見つかりました。これは長期間メンテナンスを怠ったためにセンサーが誤作動したと推測されていますが、これによってお客様が被害を受けることになれば、業界が積み上げてきた健全化の努力は崩れてしまいますから、この事実は真摯に受け止めなければなりません。

**加藤** 機構の立入検査は、設立から現在までの間に全国約1万2000店舗をほぼ一巡し、現在、離

島や2巡目の検査に入っているとうかがっています。警察としましても、これまで機構の立入検査を端緒に不正改造事犯を立件した事例が10件を超えるなど、その成果が着実に上がっていると認識しています。

また、昨年4月より、新たに計数機検査を実施しているという点ですが、機構が計数機検査を実施した結果、計数機に対する不正チップの取付け事案を認知したとの報告は受けておりませんが、計数機のメンテナンスの怠慢に起因すると思われる計数のマイナス誤差が見られているとの報告を受けております。不正チップの取付けに起因するものであれば、メンテナンスの怠慢に起因するものであれば、計数のマイナス誤差が発生することとなるといえる点では同じであり、直ちに改善しなければ、ばちんこに対する遊技客の信頼を失うこととなります。この件については機構から業界宛てに、再三にわたり指摘がなされていると承知しています。

機構によるこれらの活動については、ばちんこ業界の健全化を推

進するために極めて重要なものであると考えており、機構に対しましてはより一層の活動を期待しているところであります。

警察としましても、引き続き、機構からの通報には適切に対応するなど積極的に協力していきたいと考えています。

## 児童放置事案は 1店舗の油断も 看過できない

**深谷** のめり込みの問題も、業界が健全化に取り組み上で非常に重要です。いくら駐車場のパトロールを強化しても、車内放置による幼いお子さんの痛ましい犠牲が、毎年どうしても起きてしまうのは残念でなりません。また、のめり込みが起因の犯罪も後を絶ちません。パチンコ・パチスロ産業21世紀会の14団体は昨年、パチンコ依存の電話相談を行っているNPO法人リカバリーサポート・ネットワーク（RSN）との業務委託契約を結び、日遊協も理事1人を送り込んでいます。RSNは元々全日遊連が助成していましたが、業界ぐるみで支援する体制になったわ

けで、これからが正念場と想っています。

**加藤** ぱちんこ業界が、健全化に向けた取組を懸命に続けている最中、昨年夏に児童が、ぱちんこ店の駐車場で放置されて亡くなる事件が発生しました。警察庁としても同種の児童死亡事案が4年連続で発生している現状に鑑みて、ホール5団体へ再発防止に向けた要請文を發出しています。子供事故防止対策につきましては、ホール団体を始めとする関係団体で、ホール駐車場の定期的な巡回活動等の取組を継続的に実施されていることと承知しています。

このような痛ましい事件が二度と起きることがないよう、引き続き、広報啓発を始め駐車場のパトロールの強化等の御協力をお願いします。また、児童を連れて車両により来店しようとする遊技客について、駐車場そのものへの入場を断る取組についても引き続き御努力いただきたいと思えます。そして、大事なことは、こうした取組を行わなければリスクがその分高まるということです。つまり、一店舗でもなおざりにしていればその分、こうした児童虐待を見逃

してしまうのです。先ほど申し上げた警察庁の要請は、全国ニュースでも大きく取り上げられ、大いに社会の耳目を集めました。業界全体として、社会から、こうした悲しい事件をなくすための取組を徹底していくことが求められていると考えます。そのためには、今例として申し上げた対症療法的な活動のみならず、射幸性の抑制という原因療法にもしっかりと目を向け、こうした事件の背景にあるとされる、ぱちんこののめり込みという負の側面に対して真摯に取り組むことが、真の大衆娯楽として国民の信頼を勝ち取る上で最も適当な道であるといえるのではないかと思います。

## 広告のあり方が のめり込みにも 大きく関連

ぱちんこ依存問題相談機関、特定非営利活動法人リカバリーサポート・ネットワークでは、平成18年の開設以来、総相談件数は6000件を超えているとの報告を受けており、のめり込みに起因する問題が深刻化する前の段階で改

善を図るだけでなく、のめり込みに陥った方の回復という観点からも、有益な取組であります。引き続き、業界全体で、同ネットワークを支援していただきたいと思いますと考えておりますし、ぱちんこが健全な娯楽であることを広く国民に理解されるためにも、こののめり込み問題に正面から真摯に取り組まれることを期待します。

そのほか、のめり込みとの関連性があると考えられるものに、広告・宣伝も考えられると思います。昨年、広告・宣伝規制の運用方針の明確化を行いました。広告を見た人が普段より多くの出玉が期待できるような内容は、著しく射幸心をそそる営業となるだけでなく、ぱちんこ依存症の改善に取り組んでいる方にも悪影響を及ぼすことも考えられます。ある報道に目を通したところ、ぱちんこにのめり込んで多額の借金を抱えた男性の、「毎日のようにどこかの店でイベントがありそれを知ると行きたい衝動が抑えられなくなる。広告が大量に出ている店は当たりが出やすいのではないかと勘ぐってしまう」などの言動が掲載され、広告の影響力の大きさを指摘して

いました。業界の皆さんには、広告、宣伝の在り方を見直すことは、のめり込み問題の改善にもつながるといふことをよく御理解いただき、健全営業に努めていただきたいと思います。

## 許されない 規制逃れを狙う 違法な広告、宣伝

**深谷** 昨年6月に「ぱちんこ営業における広告、宣伝等について」「ぱちんこ営業の営業所の構造及び設備について」という、風営法の運用を明確化する2つの通知が出されました。広告、宣伝については今課長がいわれたように「射幸心をそそる」という問題に関係しており、通知が出された後にも巧妙・悪質な表現について具体例が当局から挙げられました。昨年の日遊協総会での課長講話でも、「このような広告、宣伝が行われること自体、業界の健全化が未だ道半ばにあるものを示すもの」とのご指摘があり、業界として真剣に対応していかなければなりません。業界全体が2つの通知をより正確に理解するために、ご当局の

考え方を改めてご説明していただけたらと思います。

**加藤** 広告、宣伝規制の運用方針の明確化については、業界関係者や業界紙の論調のほとんどが、「規制強化」というものでしたが、警察庁として、元々風営法で禁止されているものについて、再度規制対象であることをお示ししたにすぎないものです。違法となる表示例については、平成14年にも業界団体宛てに通知していたところで、本来であれば、その時点で違法広告はなくなるはずであったのですが、残念なことに、昨年の時点でも、隠語表現を用いるなどして、巧妙に規制を逃れようとする違法広告、宣伝がまん延していました。このため、今一度風営法の規制について御理解いただくために、運用方針の明確化を行ったわけです。しかし、このような背景に基づく警察庁の取組がある一方で、いまだに、規制の裏をかこうとする動きが、営業者だけでなく、コンサルタント等にも見られるようですが、そのようなことを続けることによって、遊技客の信頼までも失うことになるのではないかと考えます。

警察に取り締まられない限り違法な広告、宣伝をやり続けるという店を、まず業界の努力の中でなくすことが、大事なのではないかと思うところです。

また、営業所の構造、設備については、近年、営業競争の激化を背景に客室内に広告物等を設置したり、分煙意識の高まりを受けて分煙パネルを設置するなど、形状、内容共に多様化している状況にあったことから、風営法施行規則で設置が制限されている「見通しを妨げる設備」について、なぜそのような設備の設置が禁止されているのかという理由を踏まえた上で規制に抵触しない例を具体的に示すことで、遵法営業を促進することを目的として通知したものです。

## 大切にしたい 業界総意の ガイドライン

**深谷** 「広告・宣伝について」の通知の規定に沿って、全日遊連を中心にホール5団体が、景品提供の過激化を防ぐための「総付景品等の提供に関するガイドライン」を作成しました。ホール業界が自主的につくり上げたガイドラインです。運用するうちに疑義が出てくれば、そのつどご当局と相談し、誠実に履行していきたいと思っています。

**加藤** 「総付景品等の提供に関するガイドライン」については、ホール5団体が構成員である各ホールから意見を吸い上げ、見解の相

違を乗り越えて、業界の統一ルールとして策定されたものであると承知しておりますので、警察としても、指導取締りに際し、風営法の目的に照らし妥当な範囲内において、尊重することとしております。

また、このガイドラインについては、言うまでもないことですが、遵守されてこそ意義があるものだと考えております。広告宣伝における隠語のように、あの手この手で規制を逃れ、実質的にガイドラインの趣旨に反した総付景品等の提供がなされるようであれば、せっかく策定したガイドラインは形骸化し、有名無実なものとなってしまいます。ホール業界の総意で策定されたガイドラインでありますので、各ホールの営業者が、その趣旨を十分理解された上で運用されることを望みます。また、ガイドラインの改定に当たっては、必要な協力は惜しまないつもりです。

## 業界の一部に 根強く残る 法をくぐる意識

**深谷** 昨年の課長講話の中で、賞品の買い取り問題に厳正に対処す



熱心に業界の改革を語る深谷会長

ると強調されています。換金量の低減、等価交換規制も重要な問題です。行政のお立場から、営業の適正化に向けた助言をいただければと思います。

**加藤** 広告・宣伝や賞品提供の在り方だけでなく、業界の健全化を阻害する全ての問題について全く同じことがいえるのですが、ばちんこ営業が社会の中で大衆娯楽として受容され、健全に存続していく上で、「法に抵触しかねないものであっても、他のばちんこ店と同じことをしないと損するかもしれない。だから、警察に見付かるまでやり続けよう」という、業界の一部に根強く残る考え方を、完全に改める必要があると思っています。そして、警察としては、真面目に努力されている営業の方が、違法営業をしているのがゆえに損をすることのないよう、違法営業には厳しく対処していきたいと思えます。業界の皆さんには、引き続き、健

全営業に一層の御尽力をお願いします。



深谷会長が干支の辰の置き物を手し、加藤課長とにこやかに

## 「法人」の形態に 関わりなく 存在価値は不変

**深谷** 新公益法人制度の下で、日遊協は2013年11月30日までに公益社団法人か一般社団法人への移行を選択し、申請します。日遊協は業界の健全化を旗印に設立されて20年以上を経過しました。行政当局との協調の中で、業界唯一の公益法人として、また、業界の

横断的組織として、様々な制度改革を提言し、調整してきました。引き続き公益法人として存続することがベストだと思いますが、新制度下では一般社団法人となる可能性が強い状況です。どちらに移行しても横断的組織という性格は変わりませんが、改めて日遊協という組織の存在意義についてお聞かせください。

**加藤** 貴協会は、平成元年の設立以来、業界唯一の横断的組織として、各業界団体と協力の下、低射幸性遊技機の開発、不正防止対策、環境対策等、長きにわたって、真摯に御対応されました。ばちんこ業界が一定の社会的評価を受けるに至った背景には、貴協会の地道な御努力があつてこそものと感じております。

貴協会がこれまで業界をけん引し、率先して様々な問題に正面から対応して来られたその存在価値は変わるものではなく、今後、ばちんこ業界が団結して、大衆娯楽

## 「横断的組織」 業界唯一の特色 十分に発揮を

としての基盤を盤石なものとするため、貴協会が果たす役割は、ますます大きくなるのではないかと考えるところです。

**深谷** そのような状況の中で、日遊協は今年も一貫して健全な大衆娯楽を目指した取り組みを、業界の中核となって推進してまいります。日遊協のこれからの活動に関して、ご意見、ご要望がございましたらお示しください。

**加藤** ばちんこは、1600万人を超える方々が楽しんでいる代表的な大衆娯楽です。今後とも、国民が安心して手軽に遊べる健全な娯楽を提供し、ばちんこが真の娯楽として広く国民に評価されるため、日遊協が業界横断的組織というその特色を十分に発揮して、国民的な娯楽産業としての遊技業の社会的地位の向上と健全化に向けて努力されることを期待するとともに、日遊協の益々の御発展と皆様方の御健勝、御多幸を祈念いたします。